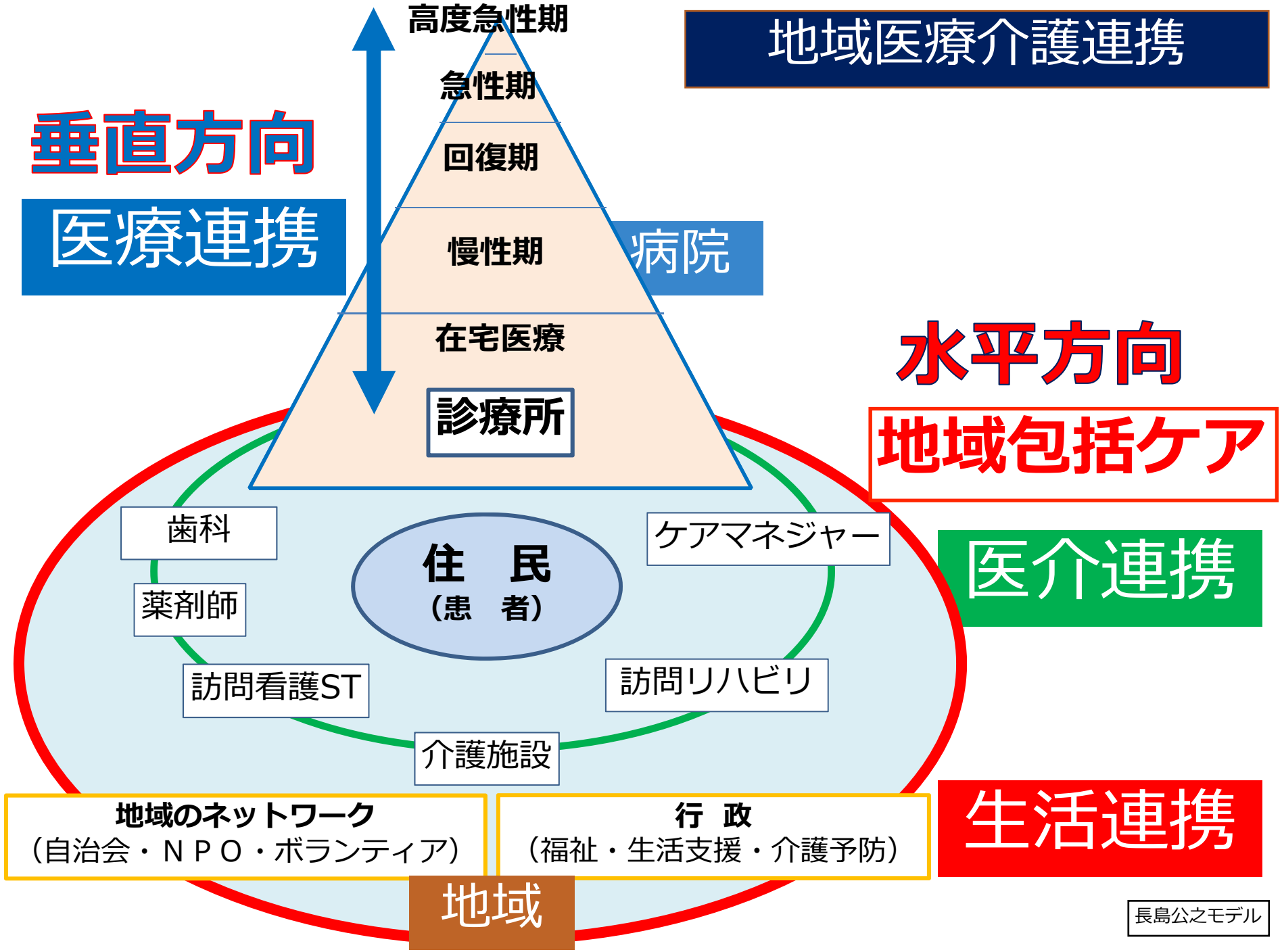
医療介護専用SNSを活用した

多職種連携の基礎知識

全国医療介護連携ネットワーク研究会
理事長
長島 公之

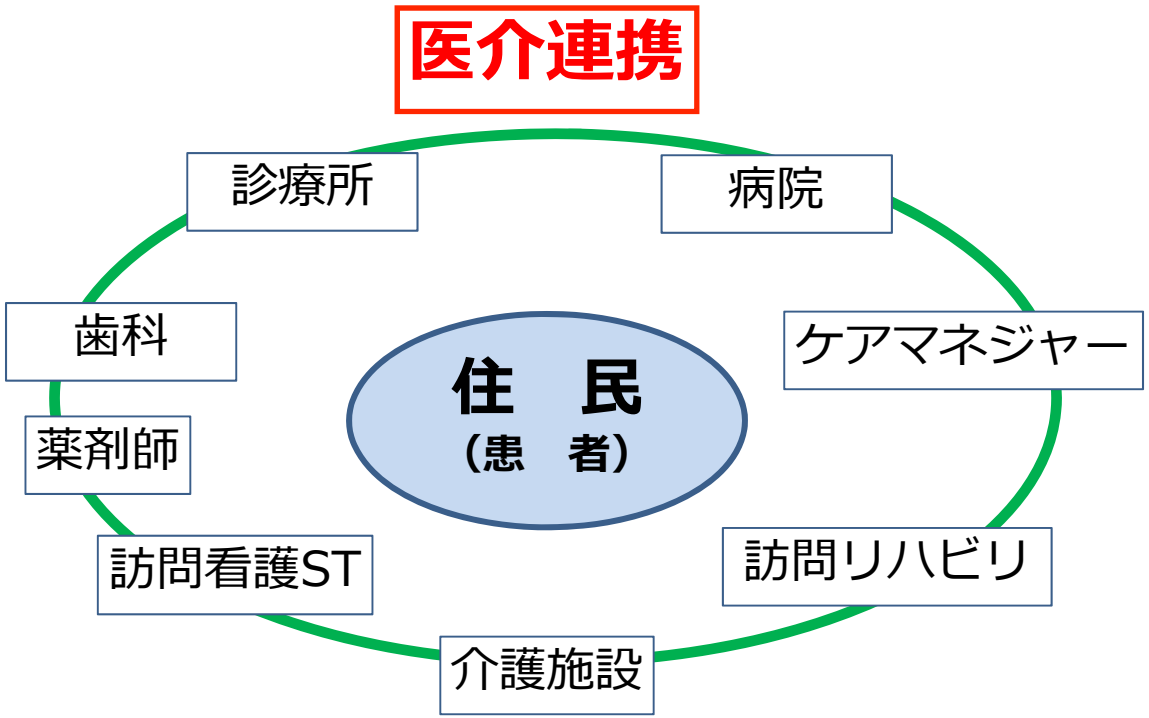
地域医療介護連携



長島公之モデル

医介連携（多職種連携）

コミュニケーション（やりとり）

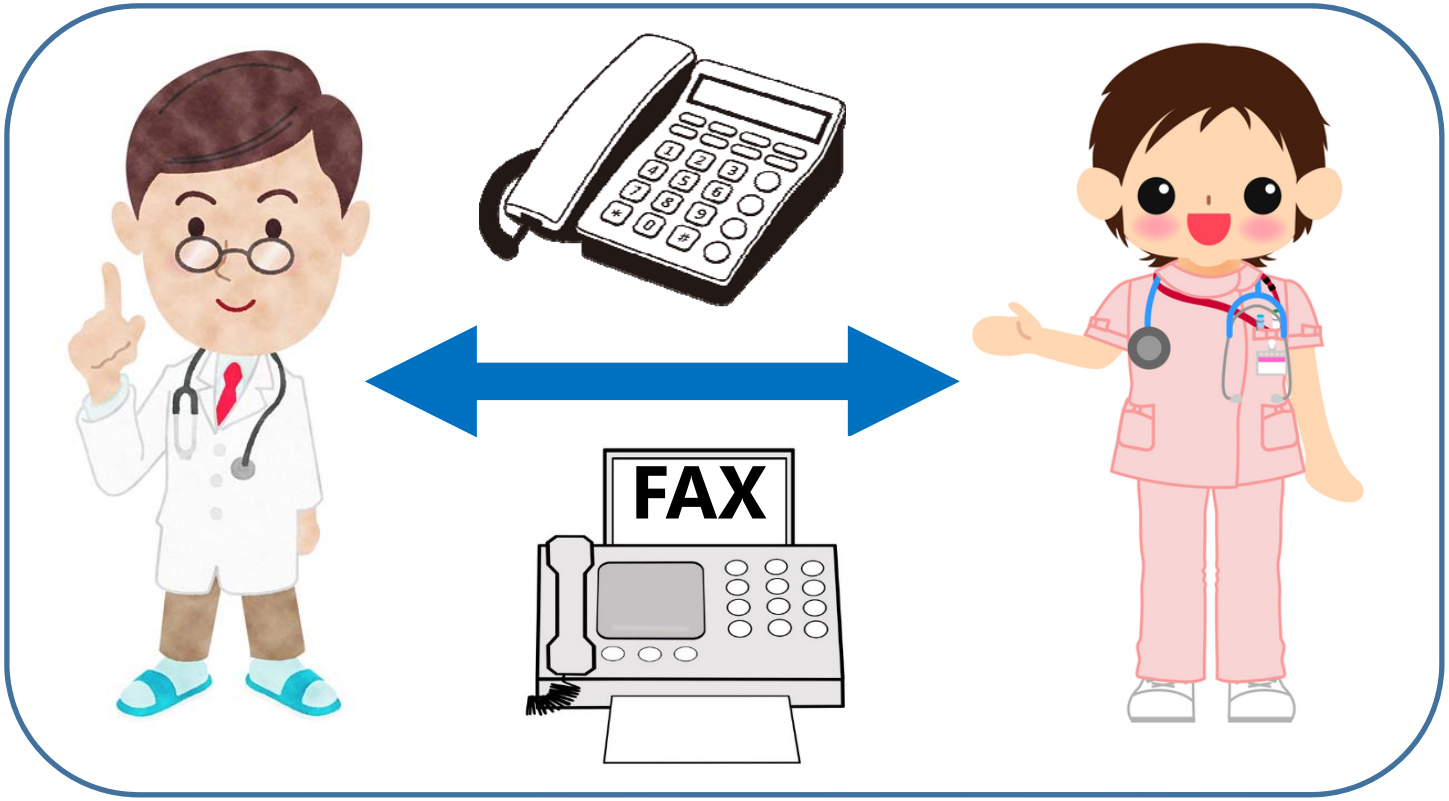


医介連携の障壁

バラバラ

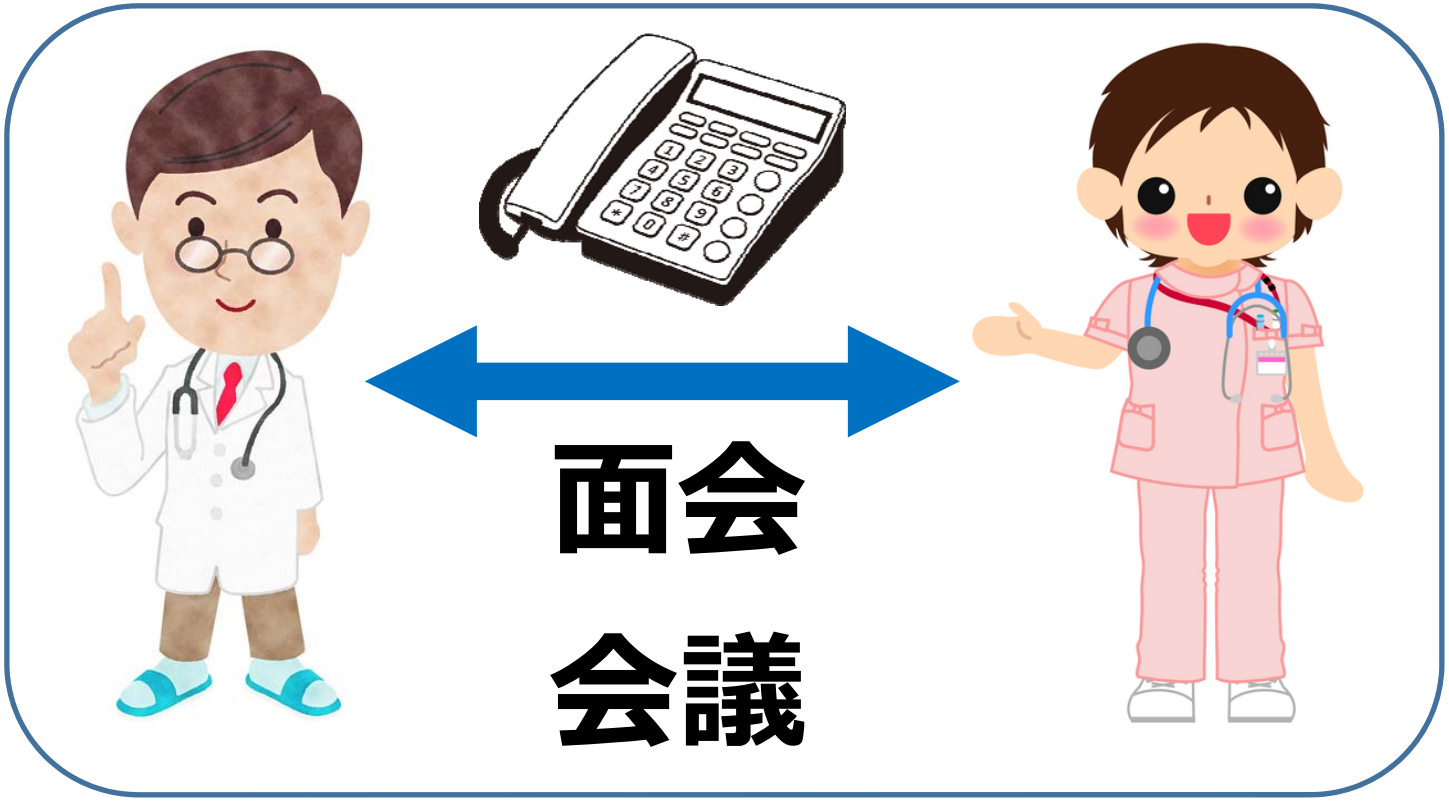
・場所　・時間　・記録

1対1のやりとり



伝わらない

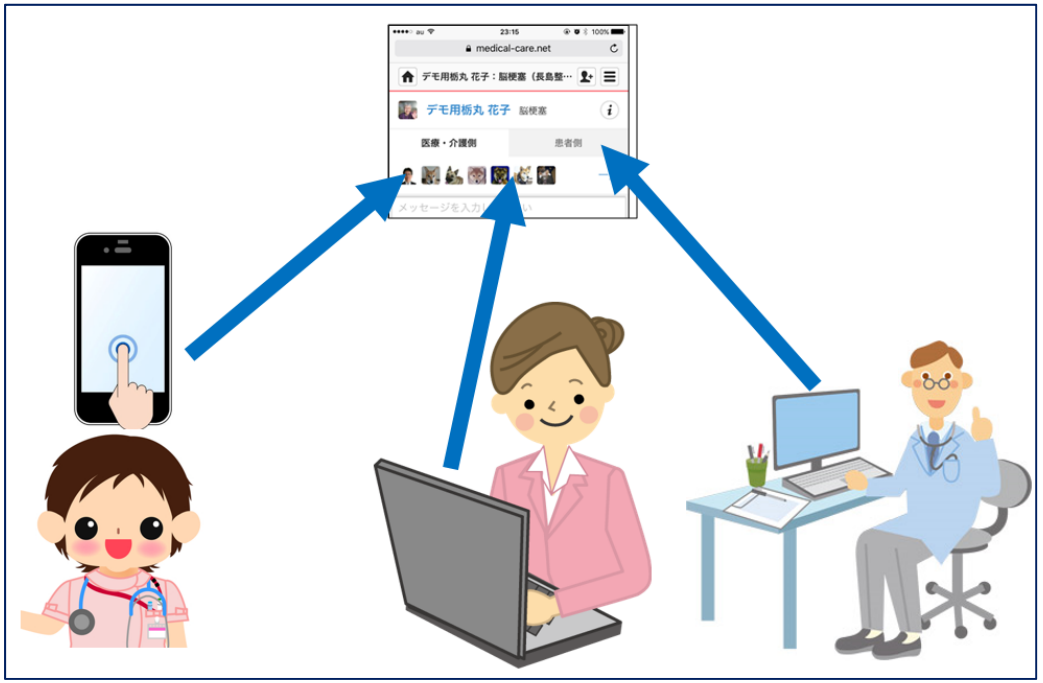
時間・場所の拘束



忙しい

気兼ねがある

ICTを使えば



◎みんなに伝わる

◎自分の都合の良い場所・時間

なぜ、医療介護専用SNSが最適なのか

コミュニケーションに特化したICT

SNS：Social Networking Service

公開型SNS（Line、Facebookなど）

危険（情報漏洩・なりすまし）

⇒ 安全 専用SNS

普及・継続のハードル

難しい・高コスト→広がらない、続かない

⇒ ・簡単・低コスト

システムがバラバラ→地域でつながらない

⇒
- 広域で統一
- 他の地域でも使える
- 他のシステムとつながる

完全非公開型 医療介護専用SNS

MedicalCareStation

メディカルケアステーション

日本エンブレース提供

1）操作：SNS　LINEより簡単

2）導入費・維持費：無料　0円

3）セキュリティ：招待・承認制、暗号化、三省GL準拠

4）写真・動画・ファイルの添付が簡単

5）タブレット端末・スマホでも利用可能

6）他のアプリ・システムとの連携を前提に開発

7）特別な機器やアプリ不要

8）他の医師会での利用実績

9）停電でも使える、データが安全なサーバーに

10）他の地域のユーザーと情報交換

●広域　（日本中）

MedicalCareStation

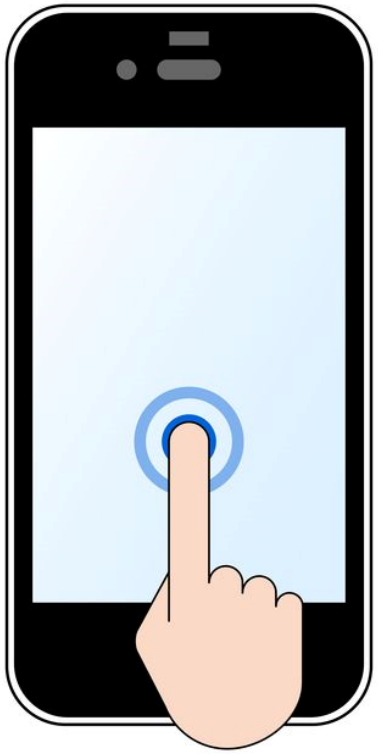
参加施設	約28,000
採用郡市医師会	約200
県全域で採用の医師会	栃木県、群馬県 埼玉県、京都府

MCSの使い方　説明動画

https://www.medical-care.net/html/support/

必要なもの

インターネットにつながる



スマホ
タブレット

PC

導入・維持費用：０円

手ぶらでスキー！

利用者・運営側（医師会・自治体など）
何も準備しなくて良い
すぐに始められる

3つの連携方法

1）患者タイムライン　2）グループ　3）つながり

PC

iPhone

患者タイムライン

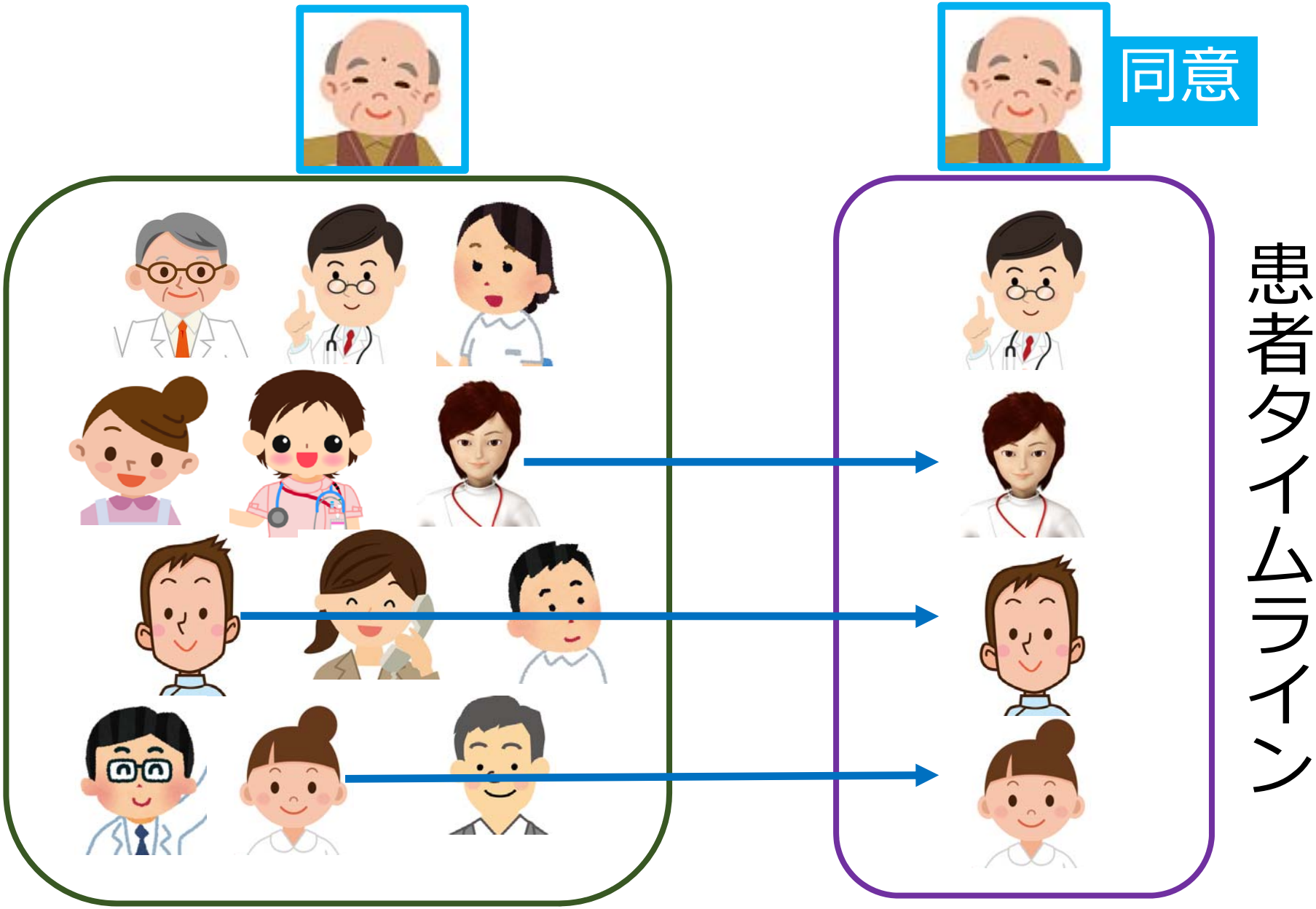
患者

参加者一覧

送信者

情報：端末には
保存されない

患者ごとのチーム作り＝招待



患者タイムラインに添付可能なファイル

いつでも 四郎
看護師（長島整形外科）

本日訪問時の仙骨部褥瘡の写真です。前回と変化ありませんでした。

褥瘡の写真

どこでも 三郎
医師（どこでもクリニック）

胸部Ｘ線では、異常ありませんでした。

X線画像

どこでも 三郎
医師（どこでもクリニック）

血液検査結果です。腎機能に問題ありませんでした。

紙の資料

どこでも 三郎
医師（どこでもクリニック）

本日の訪問リハビリのビデオです。

capturedvideo.MOV

ビデオ・音声
ファイル

ケア マネオ
介護支援専門員・ケアマネジャー

サービス担当者会議録のワード・ファイルです。

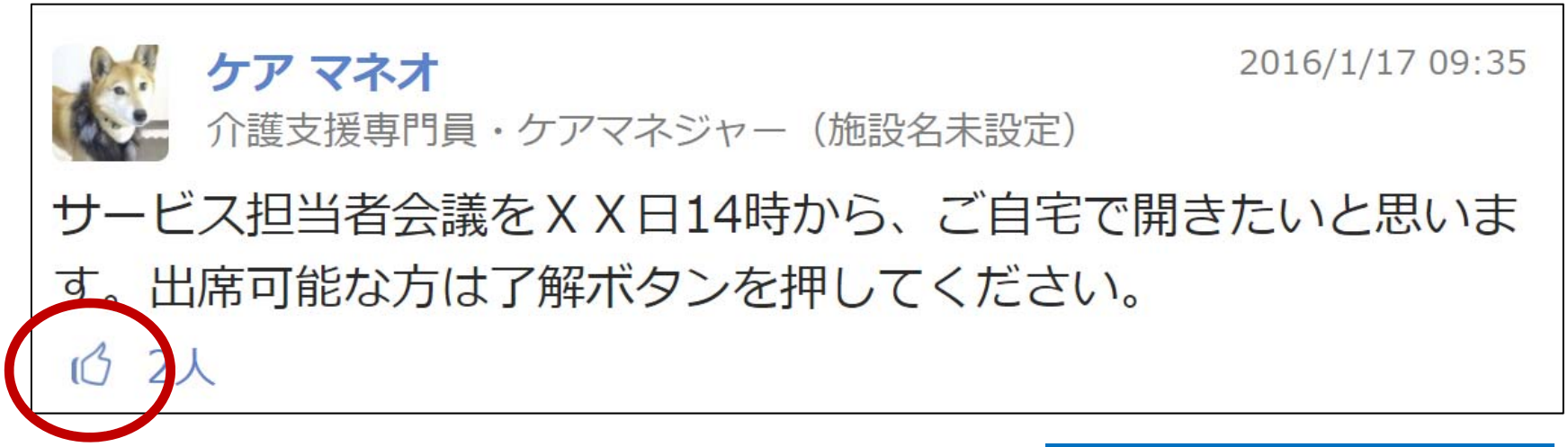
XX月XX日サービス会議録.docx

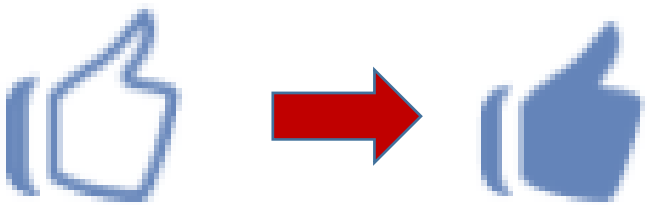
ワード・エクセル
PDF等のファイル

写真

画像をクリック
拡大表示

了解ボタン





ボタンを押すと　「了解」

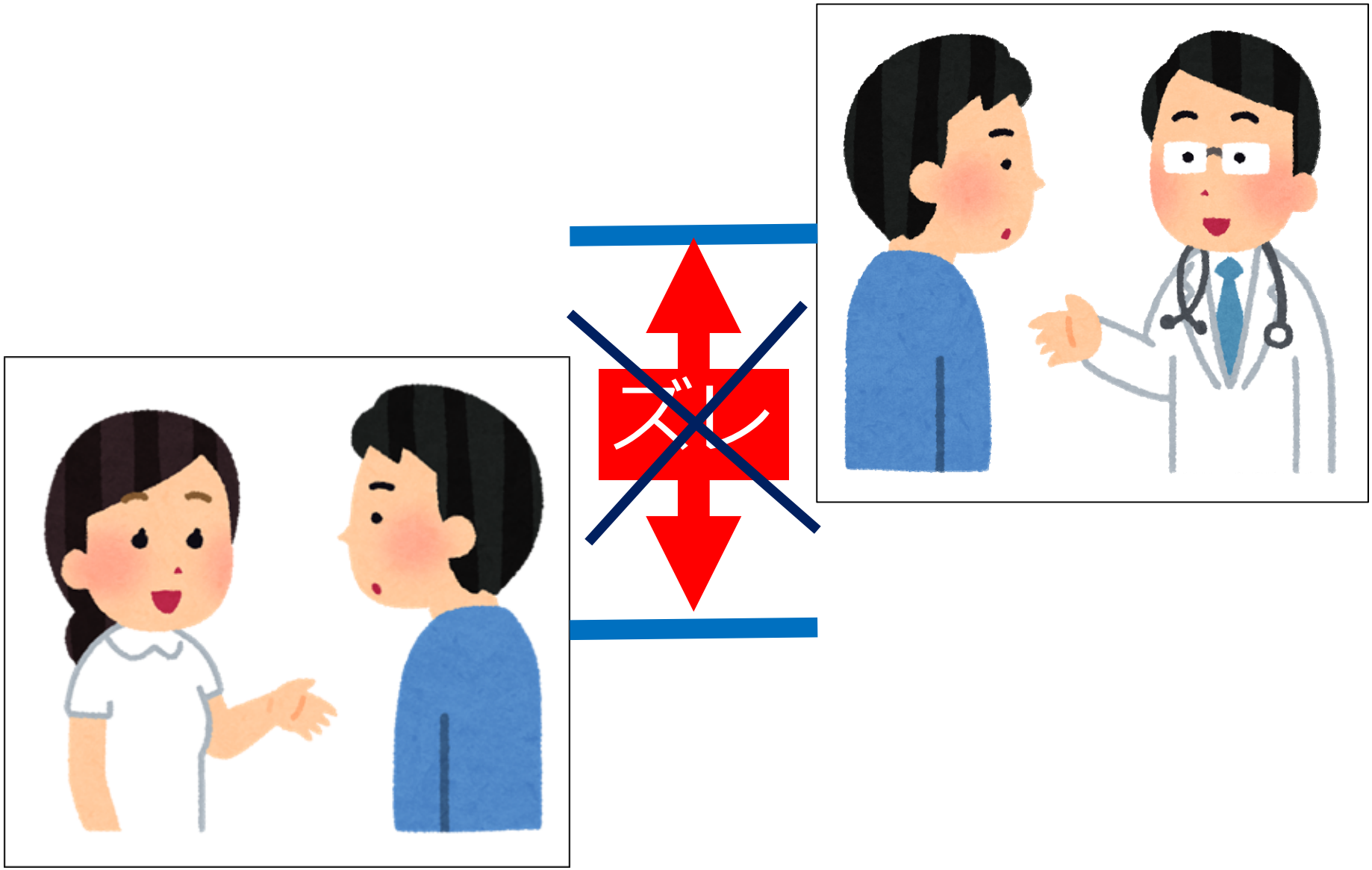
文章で書く

患者の状態・ケアの内容

患者の体調

患者・家族の気持ち

患者・家族への説明・反応



●患者・家族の参加

医療・介護側

患者・家族参加

患者・家族参加　タイムラインの可能性

患者・家族が最大の情報源

患者とのコミュニケーション・ツール
　患者への指導・支援・フォロー

グループ

地域の多職種の交流・情報交換（電子会議室）

グループ

所属するグループ一覧

グループ

地域の多職種の交流・情報交換（電子会議室）

自分の施設のスタッフ連絡網

自分の施設 ⟷ 地域の施設・多職種

医師会連絡網（インフルエンザ情報）

電話・FAX・郵送・対面会議より

安い・早い・手間が少ない

在宅医療・介護連携推進事業の具体的取組

- （ア）地域の医療・介護の資源の把握
- （イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- （ウ）切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進
- （エ）医療・介護関係者の情報共有の支援
- （オ）在宅医療・介護連携に関する相談支援
- （カ）医療・介護関係者の研修
- （キ）地域住民への普及啓発
- （ク）在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

地域多職種の会議が必須　費用・多忙の壁

↓

「MCSによる電子会議」で補完

リクエスト機能

複数の施設に　一斉依頼

病院と在宅がつながる

MCS

病院スタッフ

↕

在宅スタッフ

カンファレンス
退院前
在宅
入院前

・入退院の円滑化

・病院による
サポート

一体感　即応性

災害時の連絡網として有用

平成27年9月　関東・東北豪雨
→停電・交通遮断

MCSを使い
・地域の情報共有
　各施設の状況
・患者の情報共有
　各職種からの情報

MCSの位置づけ

（栃木県「どこでも連絡帳」の場合）

・コミュニケーションのための連絡手段

・「顔の見える関係」を基盤とする

・うまく行っている従来の連絡手段と

併用・使い分け

ICTだけに依存しない

緊急時には電話する

安全性の確保

医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第5版（平成29年5月）

厚生労働省のサイト
http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000166275.html

・ガイドライン　第5版（PDF：1,674KB）
http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000166260.pdf

・付表
http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000166263.pdf

・第5版に関するQ&A
http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000166272.pdf

ＳＮＳ　の利用について

１）「ガイドライン」には、ＳＮＳについての記載なし

２）「Ｑ＆Ａ」に記載あり

Ｑ－５
SNS で患者情報をやり取りする場合、ガイドライン上講じるべき対策はあるか。
A
SNS（Social Networking Service）において患者の医療情報を取り扱う場合、当該サービスは医療情報システムに該当し、ガイドラインの基準を満たす必要があります。
SNS には、セキュリティが十分に確保されていないサービスもあることから、一般社団法人保健医療福祉情報安全管理適合性評価協会（HISPRO）が公表している「医療情報連携において、SNS を利用する際に気を付けるべき事項」を参考に、適切な対策を講じてください

HISPRO　「医療情報連携において、SNS を利用する際に気を付けるべき事項」
http://www.hispro.or.jp/open/pdf/SNS_RiyouCheckJikou_20160126.pdf#toolbar=0

BYOD（個人所有の端末の利用）

- 原則として禁止
- 管理者の厳重な管理下なら利用可

厚生労働省

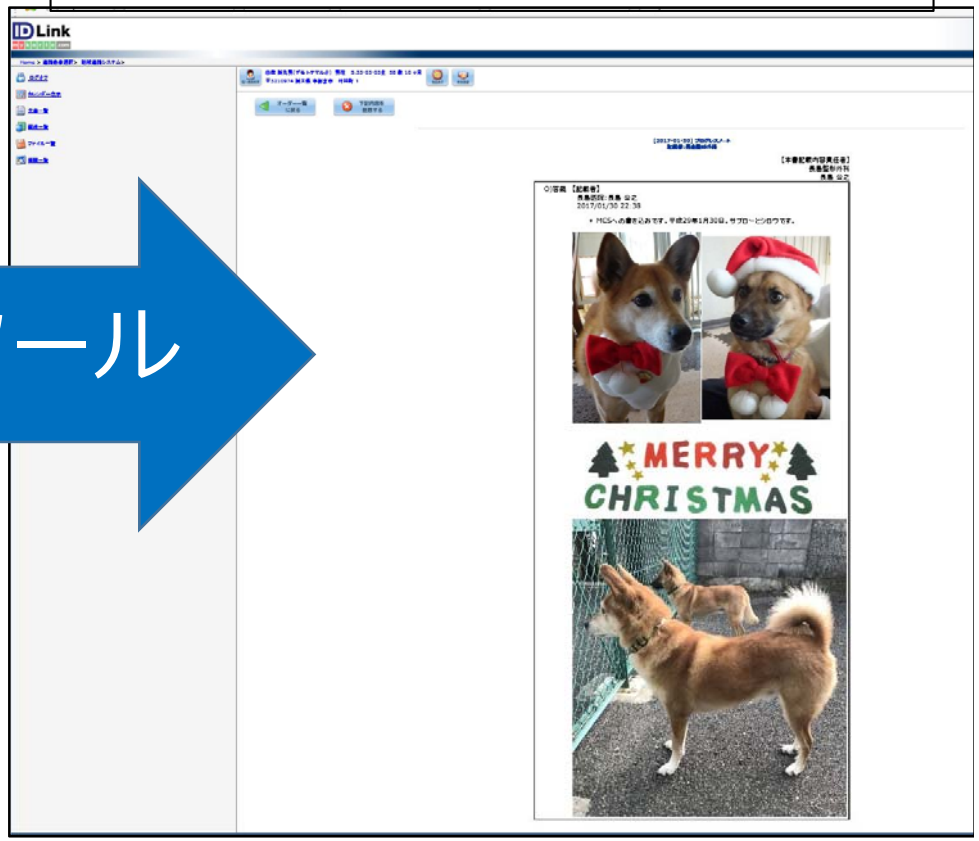
医療情報システムの安全管理に関するガイドライン　第5版

MCSの将来性・拡張性

MCS

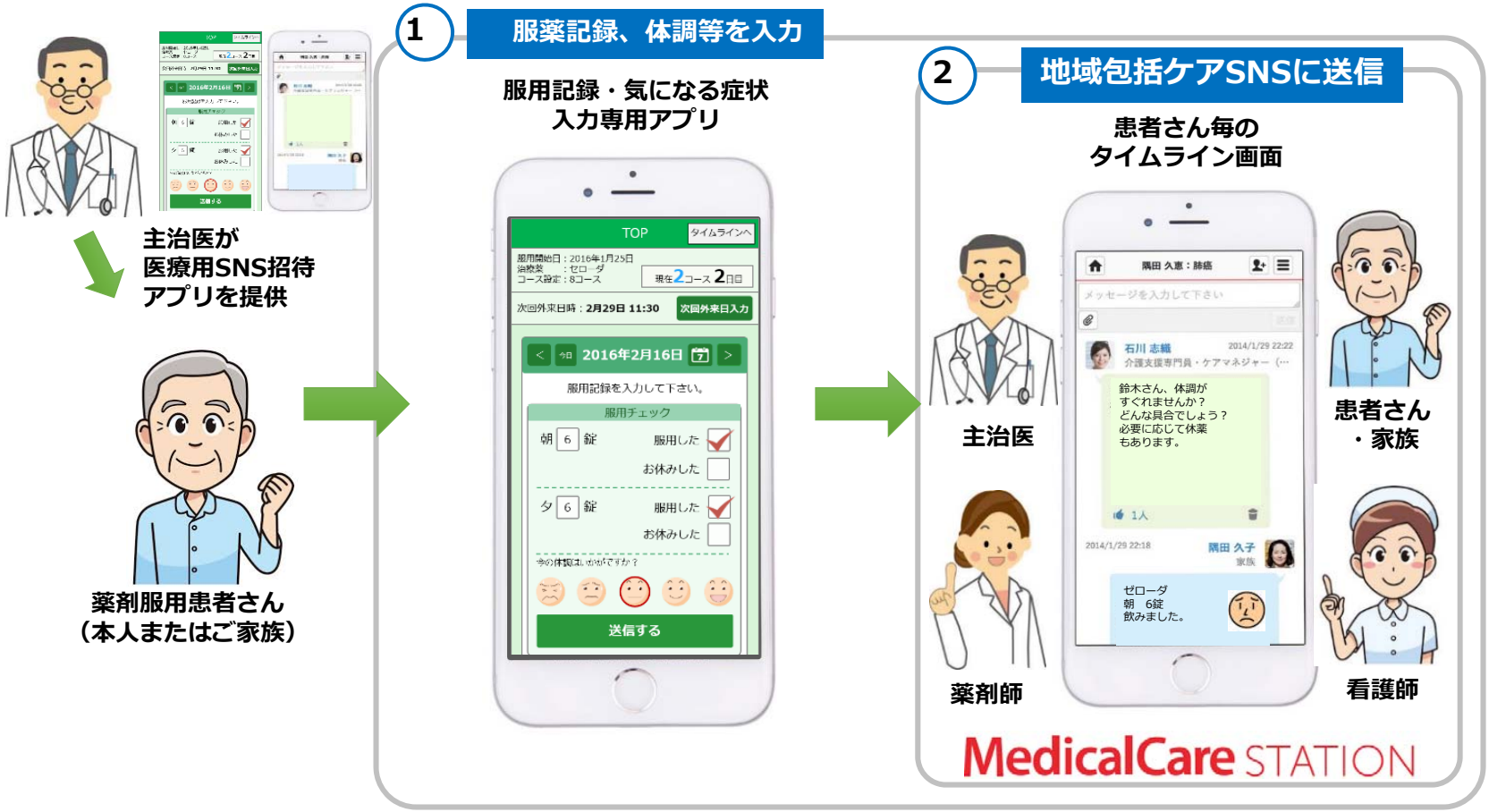
ID-Link
HumanBridge

連携ツール



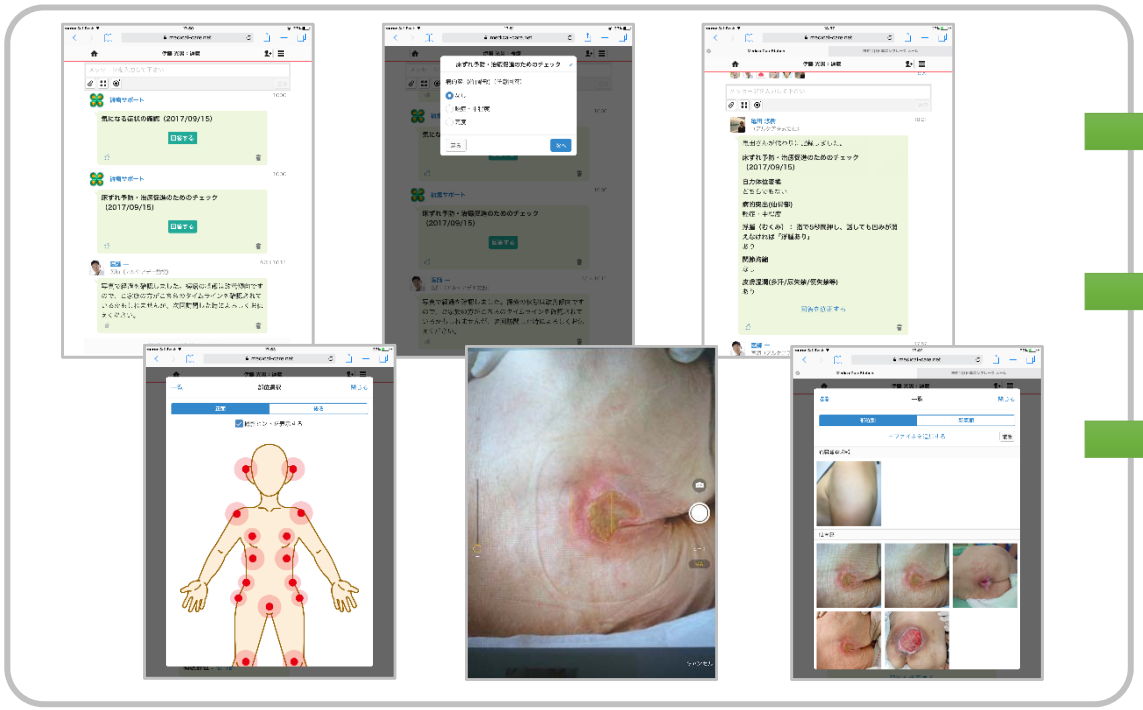
服薬適正化支援アプリ

患者・家族：服用記録や症状を入力
→MCSに送信



褥瘡ケアサポートアプリ

患者・家族、多職種：褥瘡の状態を入力
→MCSに送信



将来性・拡張性

- 在宅医療
- 救急・災害時
- 在宅以外の医療連携（病診・診診）
- 重症化・再発予防
- 健診後の指導・生活改善
- **生活支援との一体化**

「医療介護専用SNS」が目指すもの

地域包括ケアシステムの情報連携基盤
コミュニケーション基盤

・どこでも
・いつでも
・だれでも
安全に

職種・施設・制度
地域・システム
縦割りの
垣根を越えて

つかえる→つながる

日本中の多職種がつながる

全国医療介護連携ネットワーク研究会

全国各地域と　助け合い